

平成30年度 第3回特別支援学校における医療的ケア運営協議会協議（概要）

実施日 平成31年2月8日（金）

特別支援教育課

[協議]

1 「学校体制による人工呼吸器を使用している児童生徒への対応に係るモデル研究」について

※個人情報に係るため非公開

- (1) モデル研究の進捗状況について
- (2) モデル研究の現時点でのまとめ
 - ①実施手順について
 - ②実施計画書について
 - ③緊急時対応マニュアルについて
- (3) 平成31年度のモデル研究について

2 実施体制における諸課題について

○インシデント・アクシデント事例報告 ※委員のみ配布

<事務局説明>

- ・5年間のインシデントの月別発生件数をみると、年度当初と、10、11月に増加する傾向がある。
- ・インシデントの発生件数が増加している。
- ・インシデントが起きた手技を分類すると、「経管栄養」関係が多い。また、「酸素」関係についても、近年報告されるようになった。
- ・気管切開については、カニューレ抜去等、アクシデントにつながることが多い。
- ・インシデント、アクシデントの要因や背景は、「確認不足・思い込み・観察不足・忘れ」が多い。

<委員の皆様からの御意見>

- ・発生件数が増えてきていることに関しては、どんな小さなものでも公にしていけることが浸透した結果だと感じている。また、医療的ケアの対象人数が増えたことも原因だと思われる。
- ・10月に発生件数が増えることに関しては、文化祭等の時期で、学級が慌ただしくなったり、普段行かない教室に行ったりと、いろいろな変化が出ることで確認がおろそかになっている面があると感じている。それぞれの学校で気をつけなければいけないと思う。
- ・チューブの抜去という例も多い。メーカーによって抜けやすいものもあつたりするので、受診の際に相談して、使用する器具の変更を検討していくことも一つの方法だと思う。
- ・確認不足や思い込みというのは、どの仕事でも慣れてくることで多くなる。研修などを繰り返しやっていく、日頃から声をかける、ケアの様子について時期を決めてチェックするといった意識付けができるとうい。
- ・今回の情報をもとに、未然防止につながる手立てを各学校で検討し、実施する流れになるとよい。
- ・学校の医療的ケアの体制を、訪問看護師等の外部の方がチェックする体制があると、それまでとは違った視点で見直すことができると思う。
- ・医療的ケアについては、看護師だけに任せるのではなく、学校の先生も「あれ、変だな」と気付けることで、異変が発見されやすくなる。皆が新しいケアや器具に慣れる形をつくるとよい。